

匂いのオリエント葉をミックスしたマイブレンドを燻らす時、時空を超えた安らぎが得られるのがパイプスモーキングの醍醐味である。というほどに、喫煙の意義は他者からは意味不明なのが常である。

喫味以外の利点も若干ある。一般の方と席を同じくする時にパイプを取り出すのは、なかなか勇気の要ることである。せめて嫌な香りが出ないようにと、燃焼の温度を上げないように慎重に呼吸する所作が、望外に思慮深い印象を与えることが期待できる。喫煙の可否を弁えるのは当然だが、所詮灰皿を啜えているようなもので場を汚すこともない。

何物かを得るためパイプを啜えても、得られるのは脂臭さと燃え滓のみ。北斗七星がパイプの形に見え、吸口に相当する一星が隣いたら、パイプを手を取

る好機である。

サイデンステッカーと『源氏物語』の自然観

ハルオ・シフネ

(コロンビア大学教授)

高名な翻訳者であり、日本文学者にして批評家でもあった私の恩師、エドワード・サイデンステッカーが昨年八月、永住を決意して移り住んだ東京の地で、八十六歳の生涯を終えた。

サイデンステッカーといえば『源氏物語』の優れた英訳でその名を知らない人はいない。一歳のとき日本人の両親とアメリカに移住した私は、コロンビア大学の大学院生として氏に師事して以来、親交を深めてきた。現在はその後任として教鞭をとっているが、源氏の世界をあれほど深く理解し、英語の世界に蘇らせたサイデンステッカーの

翻訳には感動を覚えざるを得ない。氏の翻訳は、日米間の文化のおよび言語的な相違への、興味深い洞察に満ちている。

サイデンステッカーは、『源氏物語』における自然や季節の果たす役割に特に注目していた。これは私自身が引き続き探求しているテーマでもあるのだが、たとえば、女性の登場人物の名前(桐壺、藤壺、夕顔、若紫、朧月夜、葵など)の由来にはっきりと現われている。各巻の名称も、ほとんどが天象や植物(松風、薄雲、若菜、梅枝、柏木、早蕨など)、あるいは昆虫や鳥(空蟬、初音、胡蝶、蛭など)から取られているのである。だが、こうした季節の植物、昆虫、そして天象を英語に翻訳することは、言語的にも文化的にも難題である。英文学では Lily (百合) や Violet (すみれ) のように自然から名前をとるこ

とは非常にまれであり、また一般的に、英語圏では『源氏物語』における花のようには象徴的連想が働かないのである。

たとえば、日本語で桜、梅、橘と聞けば、誰もが美しく咲き誇る花々、あるいは甘い香りを想像するだろう。しかし、これが英語に直訳されると cherry, plum, orange となり、「キウリンぼ」「梅の実やジュース」「オレンジの果実」といった果物が連想されてしまう。英語には花やその芳香を愛でる言葉が見つからないのである。そこで、英語に翻訳する場合には、cherry blossom のように、花として鑑賞することを表す blossom という言葉を加えなければならぬ。

サイデンステッカーの翻訳には、このあたりの日本語と英語の微妙な差異が見事に反映され

ている。光源氏に愛される薄幸の女性・「夕顔」の名を訳す際には「white-flowered gourd」または moonflower という植物学的翻訳をあてはめず、Evening Faces という字義を活かした名前を付けた。夕顔が夕方 (evening) に息絶えることとの関連性を示唆したのである。他にも、神道の儀式に使われる櫛を sacred tree (神聖な木) と訳すことにより、漢字が示す宗教的含意を伝えることに成功した例もある。最新の源氏英訳者であるロイヤル・タイラー氏は、櫛を green branch と訳しているが、これでは植物学的に正確であっ

ても文化的な意味は伝わらない。そもそも『源氏物語』における空間は、時刻、季節、そして特定の天象(霞、霧、薄雲、野分など)なしには存在しないと

言っている。たとえば、日本語では春に「霞」とよばれる現象が、秋には「霧」とよばれる。だが、英語には mist, haze, fog といった、特定の季節とは無関係の単語しかない。また日本語には、雨を表すのに、春雨、五月雨、時雨など、季節によって複数の言葉があり、それぞれが静寂、憂鬱、無常など、特定の文化的含意を持つものに対して、

英語には rain や shower など、季節的、文化的な意味のない言葉しかないのである。

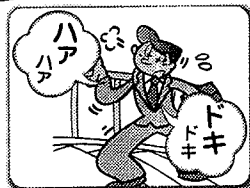
一方、『源氏物語』における時間は、早朝または夕暮れや黄昏に焦点が置かれるところに特徴がある。季節の焦点も、春の訪れ、春の終わり、夏の訪れなど過渡的な時節に置かれる傾向がある。季節の移り変わりへの興味は、日本人の生と死のサイクルへの注視と密接な関係があるだろう。

ただ、『源氏物語』に現れる自然とは「野生の自然」ではなく、二次的な自然、すなわち庭に造られた自然、絵画や詩歌に

描かれた自然だということには注意しなければならぬ。故に、そこに現れる植物や昆虫は、実際の外見や挙動よりも、詩的、文化的な連想に重きが置かれているのである。

折しも、今年二〇〇八年は『源氏物語』が記録の上で確認されて一千年という記念すべき年である。残念ながらサイデンステッカーは、その直前に人生を終えてしまったが、氏が繊細で鋭い感覚をもって、日本文化の自然観、季節観を世界に伝えることは、これからも多くの人々の記憶に残っていくことだろう。

アクティブなあなたを応援します!



階段や坂道で息が切れる...



人混みや電車で立ちくらみが...

こんな時には救心!

<救心>は生薬の働きで血流を良くし、自律神経の乱れを改善して、これらのつらい症状を治します。



村上 尚

医薬品

どうき・患切れ・気つけに



●お求めの際は(救心)(救心カプセル)とご指名ください。

救心製薬株式会社

〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7

http://www.kyushin.co.jp/ 詳しくはホームページへ



資料・試供品(形状見本)贈呈

八カ午に①試供品名②〒住所③氏名④年齢を明記の上、弊社お客様相談室BS係まで。頂いた情報は試供品発送以外では使用しません。

文藝春秋

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
平成二十年五月一日発行（毎月一回一日発行）
第八十六卷第六号

総力特集 **脳力革命** 藤原正彦、川島隆太
茂木健一郎、神山潤
ルポ 橋下知事 vs 大阪府の闇 / 大研究・織田信長 五月号

